（別紙様式４－１）　　（県立高等学校・中学校用）

熊本県立八代工業高等学校（全日制）　平成２８年度学校評価表

１ 学校教育目標

「学力の定着」、「規範意識の育成」、「進路の保障」、「人間尊重の精神」を基底に置き、校訓「誠実」を核として、知力・体力・人間力を磨き、未来を切り拓く主体性のある生徒を育成することを目指すとともに、工業高校としての使命を果たし、地域の信頼と期待に応える学校づくりに努める。

２ 本年度の重点目標

熊本県教育振興基本計画の第２期くまもと『夢への架け橋』プランと本校校訓『誠実』に則り、「認め、ほめ、励まし、伸ばす」くまもとの教職員像の行動指標を踏まえ、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」など「生きる力」を育み、特色ある信頼される学校づくりを目指す。

①社会に適用する人間力を持った人材育成　②確かな学力の向上と進路実現
③部活動の積極的推進　④開かれた学校づくり
⑤教育環境の整備充実と安全教育の推進　⑥校務改善に積極的に取り組み教育の質的向上を目指す

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校目標及び重点目標の共有	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底	教育目標と重点を説明し、職員・生徒は９割、保護者は８割以上の認知度を目指す	職員会議、全校集会、ＰＴＡ総会、学年保護者会、地区懇談会、三者面談、学校新聞等で本年度教育方針等の説明	B	教育目標や重点の理解度はアンケート結果から保護者92%、生徒85%であった。残念ながら生徒は9割に及ばなかった。目標達成した保護者には機会ある毎の周知が要因と考える。今後の周知方法として、これまで同様集会やPTA活動等の機会だけでなく、HPや学校広報等を利用した周知徹底を図りたい。
	学校マネジメントの充実・強化(組織的活動の確立)	各部、各科の目標達成に向けたマネジメントの確立	各部・科での役割認識と組織の一員としての使命感と自覚	定期的に各部・科の連絡会を開催し、目標達成に向けた進捗状況と今後の対策の確認	B	教科会は時間割に設定してあり、定期的に開催できている。職員が兼務する分掌部会は定例化は難しく、今後も設定し辛い。各分掌毎に情報共有化に向けた手立てや工夫はなされているが、各学期1回程度は部会時間を捻出したい。
	教育環境（施設・設備）の充実と積極的な活用	実践的で教育効果があがる教育環境整備	実習内容充実と高度化への施設設備検討	産業社会の施設設備の現状調査。企業での職員研修の実施	C	老朽化設備や施設改修の対応は要求を続けている。今年度も企業職員研修1名参加。今後生徒や他職員への教育活動の充実へ反映させる。
		働きやすい環境整備	週１回、身の回りの環境整備を実施	職員室・各管理室の清掃・整理整頓の徹底	C	各室の清掃活動は毎日実施している。整理整頓は各担当者で差があるため更なる徹底が必要。今後は不要品の処分等も実施し、定期的なスペースリフレッシュに取り組みたい。
		現有する施設・設備の活用と点検	施設・設備の安全点検と整理整頓の徹底	学期毎に施設設備の安全点検簿の提出	B	学期毎の定期的点検に加え、熊本地震の被害点検もあり、点検機会が増えたことで安全確認の徹底できた。
	安心・安全な教育活動の徹底と開かれた学校づくり及び広報活動の充実	PTA総会、体育祭、文化祭へのＰＴＡ・中学生・地域住民の参加促進	PTA総会は出席率９割以上、文化祭には300人以上の来客者数を実現する	教務部、各学科、進路指導部、生徒会等を中心とした広報活動（ＨＰの充実と学校便りの送付等）と積極的マスコミの活用	B	PTA総会出席率は、委任状の提出も含めて93.3%で目標を達成できた。HPについては毎日の更新がなされた。文化祭では昨年に引き続きテクノ広場を開催、好天にも恵まれ数多くの来校者があった。
学力向上	授業の充実（わかる・わかりやすい授業の実施）、教職員の授業力向上	生徒の実態と理解度の把握、学習意欲を引き出す授業の工夫	基礎・基本的学力の確実な定着と目的達成に向けた学力向上	授業時数の確保、年間授業計画を学期、月毎にチェック 成績不振者への補習の実施、考査前・考査中の部活動中止	C	1学期は休校が続き、授業等も予定通りに進まなかったが、2･3学期の授業計画で曜日の偏り等を調整した。考査前1週間は、部活動を中止し補習を行った。補習該当者が多く、普段の授業への取り組み方や家庭学習の習慣を身に付けさせる必要がある。研究授業では、ICTを活用した授業が多くあり、授業評価ｱﾝｹｰﾄ結果からも、授業への工夫が感じられた。
			授業向上への研究授業の実施（ＩＣＴ機器活用・アクティブラーニング等）	生徒による授業評価アンケートの実施（理解度調査）、各教科最低１回の研究授業の実施		
	工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得	知識と技術の向上に向け、技能検定や国家資格等に挑戦	ｼﾞｭﾆｱﾏｲｽﾀｰ認定者数の全国上位校入り（100人以上のｼﾞｭﾆｱﾏｲｽﾀｰ認定）	資格検定試験の精選、学科と学年が連携し継続的指導、朝や長期休業中の課外の実施	B	朝課外等を利用し、各科とも計画的に課外を行っていた。ｼﾞｭﾆｱﾏｲｽﾀｰ認定者はｼﾙﾊﾞｰ58人、ｺﾞｰﾙﾄﾞ29人であった。ｸﾗｽでの学力差が拡大しているので受験する資格の精選が必要である。
	専門的な知識と技術の深化 「ものづくりは人づくり」	創意工夫をこらしたものづくり	「生徒研究発表会」「ものづくりコンテスト」等各種コンテスト入賞、こども科学ﾌｪｱの継続実施	各種大会出場者の徹底指導、学科や学年を超えた指導、指導者の技術力向上に向けた研修会等の実施、学校広報活動の充実	A	「高校生ものづくりコンテスト」において2部門で金賞、出場した5部門全てで入賞を果たした。溶接大会も個人･団体ともに優勝できた。八代こどもフェアなど継続的に参加し、地域からも評価を得ている。準備不足の大会や開催されなかった大会もあり、更なる技術力向上も必要である。
			課題研究の充実	生徒の興味関心に合った研究継続型課題研究の内容検討	B	各科とも熱心に取り組んでおり、課題研究発表会では、1年間の研究テーマの成果を発表方法を工夫して発表ができていた。
キャリア教育（進路指導）	キャリア教育の充実と強化	保護者・生徒への的確な進路情報の提供と目的意識の啓発	保護者会・学年集会、ＬＨＲ等での進路指導の充実	進路講話（保護者向け、学年ごと）の実施、進路だよりの発行等の啓発活動の実施 ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ、工場見学等の実施	B	始業式･終業式･学年PTAなどの場で、進路講話を実施することができた。今後は、LHRも活用していきたい。また、生徒の意識が向上し、進路資料室の利用者も増加傾向にある。さらに、情報提供に努めていきたい。
		きめ細やかなキャリアガイダンスの実施	内定率100%の進路希望実現	進路指導部、学年、各学科の連携によるきめ細やかな指導	A	特に製造業において、再雇用後の65歳退職者の増加に伴い、技能伝承のために求人意欲が旺盛であった。そのため、1次試験の内定率が94%と過去最高を記録し、11月には内定率100%を達成することができた。
	高レベルの進路実現（伸ばす教育の実現）	生徒の希望に応える進路指導体制の確立	難易度の高い大学、公務員、企業等への合格者の増加	進学指導体制の充実と進学課外の実施 公務員指導体制の充実と公務員課外の実施 就職指導体制の充実と基礎学力課外(朝課外)の実施	B	毎日、早朝から基礎学力向上･資格取得のための「朝課外」、公務員志望者のための「公務員課外」、国公立大学合格のための「進学課外」をそれぞれ実施することができた。その成果として、早々に就職内定率100%を達成し、熊本大学をはじめ国立大に3人合格できた。

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	社会で必要とされる心構えと基本的生活習慣の確立	・時間、期限、約束、ルールの厳守 ・心のこもった挨拶や言葉遣い、礼儀、マナー、制服の着こなしの徹底 ・情報モラルの習得	・欠席遅刻の減少 ・笑顔で明るい挨拶とＴＰＯに応じた言葉遣い、礼儀、マナーの習得と服装の着こなし指導の徹底 ・情報モラルの育成	・挨拶指導や校門指導 ・交通安全や携帯電話教室の実施 ・定例服装検査と日常的指導 ・ＰＴＡや地域との連携した指導と生徒会活動を通しての生徒指導	B	大多数の生徒が時間通りに登校し、毎日の勉学に励んでいる。 制服の着こなしや礼儀作法についても、昨年度よりも全体的によくなっている。生徒会交通委員や関係機関と連携し、交通安全意識の向上を目指した。ただ、携帯電話等の長時間使用が顕著に認められる。家庭と連携した今後の取り組みが課題である。
	校訓「誠実」と友愛精神の涵養	・誠実な言動の確立 ・自他の尊厳と生命を尊重する心の育成 ・母校愛の育成	・自他への危害や損害を与える行為禁止 ・過ちを素直に認め、課題や問題への誠実な対応力の育成 ・校歌斉唱の充実	・教育活動全般を通し、全教職員が、「認め・ほめ・励まし・伸ばす」を念頭に、毅然とした態度で生徒に向き合う ・始・終業式や卒業式等における校歌指導の徹底	B	多くの学校行事を通して、協調性や友愛の精神を育んだ。ごく一部に不適切な言動等により指導を受けた生徒も出たが、素直に指導に従う生徒がほとんどであり、校訓「誠実」の下、落ち着いた生活が出来ている。
	問題行動や悩みを持つ生徒への対応	・不適応行動を起こした生徒や不登校生徒の指導や支援	・課題を抱える生徒への組織的支援の確立、特別指導の充実	・特別指導計画の作成と組織的な指導の実践、ＳＳＷやＳＣ、教育相談部との連携	B	本年度から特別指導対象生徒を原則SSWまたはSCとに繋ぐ取組みを始めた。問題行動がある種のシグナルであると捉えると、是は是と指導しながらも、本人だけでは解決できない悩み等についてケアする契機にできたことは一定の成果があった。
人権教育の推進	人権教育の充実	全職員の実践力向上	・校外研修(年１回以上)参加、校内研修(学期に１回)実施 ・体罰や暴言等防止	・校外研修日程の周知徹底と推進委員会で企画立案と実施 ・全職員対象コーチング研修実施	B	ほぼ全ての職員が校外研修に1度は参加することができた。校内研修では、昨年度の続きでコーチング研修を実施し、体罰・暴言防止についての学びを深めた。また、いじめ防止、水俣病、ハンセン病、部落問題について研修を実施し、教育実践の交流も行った。
	全ての教育活動を活用した人権意識	人権教育の充実	・人権教育に係る、年間計画の作成	・人権教育推進委員でＬＨＲ指導案の原案作成	B	推進委員が原案を作成し、学年会を中心に事前研修を行い、より良いものに改善できた。
			・人権教育講演会を年１回実施	・人権教育推進委員会での企画立案と実施	B	生徒指導部や教育相談部と連携し、1学年でデートDV防止講演会、全学年対象の女性の人権に関する講演を実施した。また、全学年で部落問題に関するDVDを視聴した。
	命を大切にする心を育む指導	自他を尊重し、お互いを思いやる言葉や態度を育成できたか	・いじめアンケートで、いじめや暴力を受けたことがある生徒数の減少	・コミュニケーションスキルアップトレーニングを継続実施 ・命をテーマにした講演会を学期に１回実施	B	生徒指導部や教育相談部と連携し、いじめアンケート、いじめ防止講座(アサーショントレーニング)、ケータイ安全教室、薬物乱用防止講演会、コミュニケーションスキルトレーニングを実施した。いじめは0件にならなかったが、早期発見・早期対応ができた。今年度から毎月人権標語を作成し、掲示することで人権感覚を磨くきっかけとした。人権標語は、生徒会共助部局を中心に検討して作成した。
いじめの防止等	いじめの根絶	・いじめを生まない集団の雰囲気づくり ・いじめの早期発見に取り組む ・いじめ発生時の適切な対応	・生徒会活動等を通して、いじめを生まない雰囲気づくり ・生徒と教師の信頼関係構築と生徒の相談しやすい環境整備 ・いじめが起きた際、適切な対応法の徹底	・標語やポスター募集、いじめの撲滅宣言実施 ・日頃から「認め・ほめ・励まし・伸ばす」教育と生徒の人権に配慮した教育実践 ・本校いじめ防止基本方針に則りいじめ根絶への取組実践 ・重大事態対応ﾏﾆｭｱﾙの整備	A	いじめを生まない集団の雰囲気づくりを生徒会やクラス単位で進めた。学校全体では、軽微なトラブルやいじめは発生したが、初期段階における発見と適切な対応ができ、重大事態に至る前に解決若しくは見守りを行うことが出来ている。今後もいじめ防止等対策委員会を中心に組織的な未然防止と早期発見のための取り組み及び迅速かつ適切な対応ができる組織づくりを行っていく。
特色ある学校づくり	開かれた学校づくりの充実	魅力ある教育内容への更なる充実と中学生、保護者、地域社会への教育成果の周知徹底	ものづくり講習会や開放講座等の実施における時期、参加者数の改善充実を図る	中学生体験入学の実施 学科毎のものづくり講座実施 ホームページでの参加募集など、広報活動の工夫を図る	C	中学生体験入学の参加者は、昨年度より40人少なかったが、各科とも内容は充実しており、PRはできていた。今年度は、夏休みが7日間短くなり、夏休み期間中に行っている「ものづくり講習会」は実施できなかった。
			教育成果や学校行事の実施状況を年２回中学校等に紹介	学校情報の広報誌制作やホームページの充実、地域のニーズに対応した製品製作	C	HPや安心メールの広報活動により、来校者も増え、学校行事を充実させることができた。12月に折り込みチラシ2万部を配布したが、今年度の配布は、1回だけであった。
	部活動による社会を逞しく生き抜く心身の育成	・朝は課外、放課後は部活動に励むメリハリのある学校生活 ・基礎基本を大切に、凡事徹底の実践	各種コンテスト入賞と部活動各種大会での入賞(ベスト８以上目標)	顧問と生徒・保護者との連携(信頼と協力)による指導強化 外部研修含む顧問指導力向上	A	高校生ものづくりコンテスト2部門九州大会出場、溶接大会個人・団体九州大会出場、マイコンカーラリーも九州大会出場を果たした。ソフトボール・柔道・弓道部の全国大会出場、卓球・テニスの九州大会出場など秋以降の新チームの活躍が目立った。
			生徒の意欲高揚	大会内容紹介や入賞結果報告	A	工業科関係の各種九州大会出場の看板も増えてきた。また、各科ホームページにも積極的に掲載している。正門付近の看板掲示や近隣中学校へ配布するパンフレットへの部活動実績掲載等を行っている。
健保安全環境の管理	校内環境整備の充実	整理整頓の意義と意識高揚	各学期毎の校内美化週間を実施する	生徒会、管理部主催による美化コンクールの実施	A	美化コンクールを各学期ごとに実施した。また、採点時の生徒の気づきや結果分析をもとに全校生徒に意識調査アンケートを行い、その結果を文化祭発表で意識啓発、掃除マニュアル作成、用具整備に活かした。
		教室、実習棟、部室等の管理意識の高揚	最低学期に１回の安全点検を実施	職員による危険箇所等の安全点検の実施	B	定期的に安全点検を実施し、事務部と連携して適切に対応した。
		教職員が率先垂範し、環境に対する責任ある態度	学校版環境ＩＳＯに取り組む	省資源、リサイクル徹底、使用電力と水道の細やかな節減、ごみの削減と分別の徹底	C	ごみ分別とリサイクルへの取組は徹底し、水の使用量も減少したが、可燃ごみと電力量は増加した。
	心身ともに健康な学校生活の実現	健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康	心身の健康に悩みを持つ生徒の早期発見と支援保健(病気予防対策等)啓発	生徒、保護者、学校の連携徹底と生徒情報共有化、毎月保健だより発行、外部講師講話の実施、衛生委員会月１回開催	B	健康診断後の治療指示の受診勧告を4回行い、受診率も向上した。SCやSSWとの連携で悩みを持つ生徒の早期対応ができた。毎月の保健だよりの発行はできたが、更に健康管理への意識向上を今後も目指したい。
特別支援教育	特別支援教育の充実	個に応じた指導の充実	必要な生徒の支援計画、指導計画作成、適切な支援を実践	学科、学年と連携しながら全職員共通理解の支援実施 家庭と学校と療育機関の連携	C	多様な情報から支援対象生徒を抽出した。該当生徒・保護者との面談後、関係書類を作成、科・学年と連携して教科担当への周知と指導計画の実施に取組んだ。本校の特別支援教育の取組はまだ日が浅く、全職員への共通理解と組織的取組を進めたい。
		発達障がいや悩みのある生徒の情報の共有化と実践	科会や学年会で情報交換会の月１回実施 全職員による適切な対応策を徹底研究	生徒理解研修会の実施 ＳＳＷやＳＣ等の活用及び専門家による校内職員研修会を実施	B	発達障がいを持つ生徒の把握と全職員への特性理解と情報共有のため年間2回研修を実施した。その後の会議でも協議を深め実効性に努めた。今後は関係機関との確実な連携と生徒への適切な配慮に繋げたい。